

はじめての法科大学院受験
「法律知識ゼロからの上位校突破法」

I 法科大学院上位校・既修者コース進学のために何が必要なのか

1. 法科大学院既修者コース入試のフロー

「適性試験」⇒(「日弁連法務研究財団 法学既修者試験」)⇒各法科大学院へ出願⇒一次選抜(書類選考)⇒二次選抜(法律科目試験)⇒三次選抜(面接)

2. 既修者入試の天王山は、二次選抜試験

法科大学院の進学希望者の減少によって、一次選抜で不合格になるケースは少なくなっています。

つまり既修者コース入試の合否は、二次選抜試験で決まります。法律科目、特に論文試験で高得点を取れるか否かが合否の分かれ目になります。

⇒「法律論文作成力を、ゼロから合格レベルまでしっかり養成すること」が、上位校合格の必須条件となります。

3. 基礎科目のinput 学習は入学前にしかできない

法科大学院の2年目のカリキュラムは、基礎科目の応用・発展科目の学習が中心になります。基礎科目の知識が習得済みの前提で授業が進んでいきます。

つまり、法科大学院の入学前に法律基礎科目の知識をしっかりinput しておくことが、既修者入試をクリアするためだけでなく、既修者コース進学後のことを考えても必須条件となります。

既修者コース進学的前提条件＝法律基礎科目の習得ということになります。

II 基礎科目の習得のために何をすべきなのか

1. 膨大な情報の中から必要不可欠な情報を抽出する

7法を独学で学習・理解することは、困難を極めます。法科大学院入試のために作られたテキスト(「デバイス・ネオ」)を使用し、プロの講師の指導を受けるのが一番確実な方法です。

2. 身につけた知識を使える知識に進化させる

知っていること＝文章として書けることではありません。

未知の問題に対し、基本から考え、解答を導くことができる応用力が養成できて

こそ、上位校・既修者コース合格が可能になります。

その応用力の養成のためには、法律学習の早期の段階から、書く訓練が必要です。

「法律総合講座」で簡単な演習を解き、間違えたら復習する。答練では、基礎答練で基本的な問題を解き、応用答練は本試験レベルの問題を解く。この過程で、応用力は養成されます。

Ⅲ 上位校・既修者コース合格のための 戦略的新カリキュラム誕生

1. 4 つの「サイクル学習」

①「法律総合講座」では、「入門講義」⇒「基礎講義」⇒「応用講義」と進行し同一科目を最大3回学習します。（憲法・民法・刑法の上3法は3回回し）

②「法律総合講座」では、「基礎講義」⇒「基礎演習」、「応用講義」⇒「応用演習」と、偶数回毎に講義で学習した範囲から演習（簡単な論文問題）を行います。

③「法律総合講座」の科目進行のスケジュールにあわせて、「法律総合答練」がスタートします。

④「法律総合答練」では、「基礎答練」⇒「応用答練」の2サイクル。基本的な問題⇒予想問題へとレベル・アップします。

「サイクル学習」＝繰り返し学習は、法律学習の王道です。

2. 法科大学院上位校・既修者コースに照準をしばったコース設計

新司法試験の合格率には、明らかな学校間格差や出身コース格差が存在します。

『法曹になる最短ルート＝法科大学院上位校・既修者コース』

そのことだけに照準を絞った結果、「既修者本科生」と「既修者本科生L」の2つのコースが完成しました。

新司法試験や予備試験、公務員試験などの受験も視野に入れているコースだと、いたずらに受講時間や対象科目が増え、受講生の時間的・経済的な負担が増えるだけでなく、未消化になってしまうケースが多く見られました。

TACの法科大学院コースなら、無理なく、効率的に、最後までご受講いただけます。

法科大学院上位校・既修者コース合格に必要なことだけを、繰り返し学習する。それがTACの「既修者本科生」・「既修者本科生L」コースです。